

那須から発信(発進)!

No.71
2021年2月

経営改善情報誌

とちぎの元気創出!



ねぎ収穫関連機械実演会



スマート農業現地研修会(農道ターンの実演)

表紙の説明

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、開催を見合わせていた「ねぎ収穫関連実演会」と「スマート農業現地研修会」を、感染症対策に配慮しつつ開催したところ、大勢の方に参加いただきました。

感謝申し上げますとともに、今後も生産者の皆様の経営改善に繋がる研修会等を開催していきます。

※2ページに関連記事

もくじ

◆表紙(現地研修会開催)	1	◆現地研修会の様子	2
◆ハウス補強研修会の開催、人・農地プラン実質化の取組	3		
◆水田での露地野菜栽培	4	◆家畜防疫・HACCPについて	5
◆認定農業者紹介(那須塩原市 人見公也さん、大田原市 (合)マルホファーム)	6~7		
◆新農業士等紹介・農政講演会開催.....	8	◆県農業大賞受賞者紹介	9
◆各種表彰事業受賞者紹介	10	◆青少年・女性活動紹介	11
◆認定農業者共同申請のすすめ・とちぎ農業ビジネススクール案内	12		

那須地方ねぎ収穫関連機械展示・実演会を開催しました！

令和2年11月9日（月）、新規作付けや規模拡大の契機となることを目的として、大田原市内の露地ねぎ栽培ほ場をお借りして最新の自走式乗用収穫機（ソフィHXG100）の実演会を行いました。当日はねぎ栽培関連機械の展示会やねぎ共同集出荷調整施設の見学会も行い、約90名の参加者が最新の収穫機の作業性の良さや、ねぎ共同集出荷調整施設のシステムについて見識を深めました。

那須地方のねぎ栽培は水稲との複合品目として導入・産地化され、JAブランド「那須の白美人ねぎ」として市場評価も高く、今後も産地の拡大が期待されています。



収穫実演会の様子



ねぎ共同集出荷調整施設の見学

那須地区スマート農業現地研修会を開催しました！

令和2年11月11日（水）、大田原市町島の農地整備事業実施地区ほ場において、那須地区認定農業者会との共催により、スマート農業現地研修会を開催しました。

協議会会員に加え、農地整備事業実施計画地区の農業者、那須野が原青少年クラブ協議会耕種専門部員や関係機関・団体職員等、約120人もの参加がありました。

（株）関東甲信クボタ、（株）東京計器、トプコンによる自動操舵トラクター（既存のトラクターに後付けできるシステム）の実演や、（株）関東甲信クボタ、積水化学工業株式会社、（株）farmoによる自動給水栓の紹介が行われ、寒風吹きすさぶ中、熱心に説明に聞き入っていました。

また、トラクターの実演では、排水路（暗渠）用地を活用したトラクターの旋回（いわゆる農道ターン）が栃木県内で初めて実演され（※表紙写真参照）、参加者は興味深くその様子を見学していました。



自動操舵によるトラクターの走行
※運転手はハンドルから手を放している



自動給水システムの説明

那須地域農業用ハウス補強研修会を開催しました!

近年の相次ぐ気象災害により、パイプハウスなどの園芸施設が損壊するなど大きな被害が発生しています。

降雪シーズンを前に積雪や強風による被害を防ぐため、令和2年11月30日(月)にJAなすの黒羽営農経済センター及び現地ほ場において「ハウス補強研修会」を開催し、農業者、JA及び各市町担当職員など25名が参加しました。

はじめに、JAグリーンとちぎの阿久津剛資材部長の講義があり、過去の甚大な災害を調べると被害に傾向やパターンがあることや、天気予報などで被害を事前に予測できる場合もあり、十分に対策すれば最小限の被害に留めることができるなど、情報収集の必要性や点検のポイントについて指導を受けました。

続いて、県農業共済組合那須中央支所の深谷係長から、園芸施設共済制度の加入資格や補償対象、共済金額について解説。更に収入保険制度について、同組合の遅沢課長から補償の仕組みや加入条件について説明を受けました。

講義後、菅生農業士(大田原市松木沢)のいちご育苗ハウスに移動し、具体的な補強資材や設置方法を確認しました。

研修会を通じて、ハウス損壊のメカニズムや補強の重要性について、改めて認識することができました。



災害対策や共催制度等の講義



現地研修

人・農地プランの実質化に取り組んでいます

現在、認定農業者を始めとする農業者が、それぞれの区域の現状と将来の課題を共有し、今後の地域の農地利用のあり方について話し合い、地域の将来方針を作成しています。結果は「実質化された人・農地プラン」としてまとめ、市町のホームページで公表予定です。実質化された人・農地プランは、区域の状況の変化に合わせて随時見直しを行っていきます。

【話合いの区域数】

- 大田原市 24区域(41区域のうち既に実質化している17区域を除く)
- 那須塩原市 39区域(40区域のうち既に実質化している1区域を除く)
- 那須町 12区域

人・農地プランの実質化は各種補助事業等の要件となっています。プランの中心経営体に位置づけられることが要件となっている場合もあります。

【話合いの様子】



大田原市



那須塩原市



那須町

収益性向上のため水田での露地野菜栽培に取り組んでみませんか

農水省は、2020年産の全国の作況指数が99「平年並み」とであると確定しました。2021年産米では、適正生産量を含めた需給見通しから、過去最大規模の水稲の作付転換が必要な状況にあります。

栃木県では、国の米政策の見直しや主食用米の消費量減少等、米生産を取り巻く環境の大きな変化に対応するため、2018年度から県内の広大な水田を最大限に活用して、米から土地利用型園芸（露地野菜等）への転換を図り、収益性の高い水田農業への構造改革を進めるため、産地モデル地域育成事業による支援を行ってきました。現在、県内で28地区のモデル産地を認定し、水田における露地野菜の生産拡大を図っています。

那須管内では、以下の3地区のモデル産地で露地野菜生産振興を進めています。たまねぎ、やまといもは、機械化一貫体系も確立されつつありますので、水稲との複合経営が可能な品目となっています。たまねぎ、やまといも栽培に興味、関心のある生産者は、那須農業振興事務所までご連絡ください。

モデル産地	市 町 名	策定主体	品 目	背 景	目指す姿
那須地区	大田原市 那須塩原市 那須町	J Aなすの たまねぎ部会	加工用たまねぎ	水田をフル活用するには土地利用型園芸作物の導入が必要となっており、平成27年から耕種農家を中心に加工用たまねぎを作付けしている。平成29年9月には「J Aなすのたまねぎ部会」が設立された。	機械化一貫体系の導入による生産性向上を図ることで加工たまねぎの産地化を進め、収益性の高い水田農業経営を確立する
					
	機械定植	機械収穫			
大田原地区	大田原市	大田原 大和いも部会	やまといも	水田をフル活用するための土地利用型園芸作物として加工用やまといもを平成26年度に金田地区で導入した。	栽培管理の機械導入により機械化一貫体系を確立してやまといもの生産性を向上し、大田原市内で産地化を進め、収益性の高い水田農業経営を確立する。
					
	機械定植	やまといもほ場			
大田原 金田地区	大田原市	株式会社 前田牧場	ほうれんそう、 にんじん、 ばれいしょ、 えだまめ、 キャベツ	大田原市は、水稲をはじめ、酪農、園芸の盛んな地域で、水稲との複合経営が多く行われている。	地域の農地を集積し、高性能機械を導入することで栽培管理の効率化を図り、契約栽培の導入及び加工業務用野菜の生産拡大により収益力向上を目指す。

家畜伝染病を防ぎましょう

[鳥インフルエンザ]

A型インフルエンザウイルスの感染による鳥類の疾病（法定伝染病、届出伝染病）です。今シーズンの国内の発生状況（R3.2.2時点）は、香川県、宮崎県など17県41事例、約712万羽と報告されています。

予防対策として、農場にフェンスの設置、鶏舎毎に消毒槽又は専用靴を用意し、出入りする人・物・車両の洗浄・消毒を徹底しウイルスを持ち込まないようにしましょう。また、野生動物の侵入対策として防鳥ネットの設置・修繕、壁の破損・隙間の修繕、鶏舎周辺の清掃、整理整頓とこれらの措置の定期点検をしましょう。

[豚熱（CSF）]

豚とイノシシの法定伝染病で、高い致死率と強い伝染力があります。県内養豚場での発生事例はありませんが、11月に那須塩原市で死亡野生イノシシ2頭、捕獲イノシシ1頭からウイルスが検出され、さらに那須町でも捕獲イノシシと死亡野生イノシシ各1頭からウイルスが検出されました。

対策として、野生イノシシに経口ワクチンを散布しています。なお、県内の豚は予防ワクチンを接種済みですが、ワクチンを接種しても全ての豚が免疫を獲得できるわけではありません。

ウイルスの農場侵入防止のため飼養衛生管理基準の徹底と、豚に異状がみられた場合は早期通報をお願いします。また、死亡したイノシシには近寄らないようにしましょう。



集合施設での演習



殺処分演習



車両消毒の演習

食品衛生法改正による「HACCPに沿った衛生管理」の制度化について

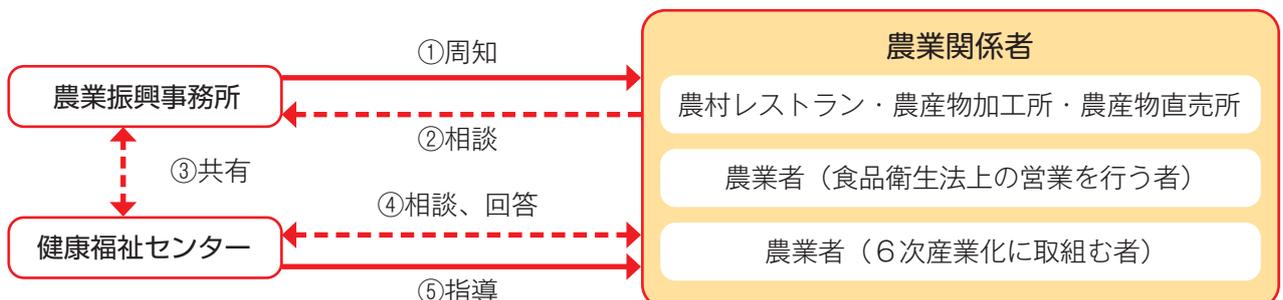
平成30年6月13日に食品衛生法等の一部を改正する法律が施行され、原則として全ての食品事業者を対象に、HACCPに沿った衛生管理が制度化され、実施することになりました。

そのため、食品を取り扱う従業員数50人以上の大規模事業場を有する事業者は、HACCPに基づく衛生管理を、また50人未満の小規模事業場の事業者は、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理を行うこととなります。

例えば、農産物直売所等に出荷して業をなす菓子やそうざい等を扱う製造販売者や食品を分割して容器包装に小分け販売する農業者・事業者等につきましては、HACCPの考えを取り入れた衛生管理を実施することになり、該当する場合は、令和3年6月1日までに取り組む方法等を決め、実践する必要がありますのでご注意ください。

今後、農業振興事務所では、加工等を行う予定の農業者や農村レストラン、農産物直売所等を対象に、職員が巡回した際、食品などを出荷される農業者等について、衛生管理に関する許可や届出、HACCPや衛生管理項目等に関する当制度について、周知し確認して参りますのでご協力をお願いします。

詳細につきましては、県北健康福祉センター（Tel.0287-22-2364）までお問い合わせください。



認定農業

人見農園にしかできない個性溢れる経営を目指して

那須塩原市高林 人見 公也さん



人見 公也さん

人見公也さんは、水稻、れんこん、牧草、スイートコーンなど約22haの複合経営を行っています。就農前は、体育教師を目指していた公也さんですが、お父様が小学生を対象とした田植え教室の先生をしている姿を見て、農業の幅広い可能性を感じ就農を決断しました。現在は、自身の農場を「人見農園」と名付け、家族で農業経営を行っています。

元々は稲作中心の経営で、約30年前に近隣の農家から農地を請け負って以来、徐々に作付面積が増加してきました。

十数年前、地元の畜産農家から「堆肥を利用してれんこんを栽培してみないか」という提案を契機に、れんこんの栽培を始めました。当時は、県内にれんこん生産者がいなかったことから、那須塩原市で生産すれば個性溢れる農業経営

が展開できると考え、生産に取り組みました。

生産にあたっては、「新鮮」で「安心・安全」な「美味しい」農産物を消費者に届けるため、良質な堆肥の利用を心がけています。

また、販売面では、独自の販路開拓に力を入れており、れんこん、お米、スイートコーンを直売所で販売しています。更に、れんこんはインターネットでの販売を始め、お客様とのやりとりを大切に、心を込めた販売に取り組んでいます。今後は、直売所やインターネットでの販売を増やしていきたいと考えています。

これからも笑顔が溢れる農園をつくっていききたいと意気込みを話されていました。



直売所で新米、れんこんを販売

者 紹 介

農福連携の取組により地域の課題を解決

大田原市紫塚 合同会社マルホファーム 代表 星 豪紀さん



星 豪紀代表

2018年に設立された合同会社マルホファームは、「農福連携(※)」に取り組みながら、とうがらし30a、露地なす20a、露地ねぎ50a、ほうれんそう(ハウス)10a、お茶100aを作付けする農業法人です。

代表の星さんは建設業を営んでおり、2011年に口蹄疫対応の視察のため宮崎県建設業界を訪問し、その影響で多くの畜産農家が廃業した厳しい状況や、深刻な農家の後継者不足を知りました。一方、2014年には熊本県の就労継続支援施設を視察し、障害者雇用の様々な仕組みや障害者の能力の高さを知りました。

そして、栃木県でも同様に農家の担い手不足や労働力不足が問題になっていること、また障害者や高齢者に雇用の場がないことを知り、地域の課題を解決するため旧川西中学校の廃校舎を活用し、2017年に就労継続支援施設「ポラリス」を設立しました。ポラリスでは、作業受託として障害者や高齢者が農作業を行い、自身が代表を務める建設会社と連携して、とうがらし栽培を始めました。

2018年には、新たに農業法人マルホファームを立ち上げ、本格的に農業に取り組みはじめました。現在も栽培品目を増やすとともに、耕作放棄地などを借受けて規模拡大を図っています。また、地域農家やポラリスと連携して、農福連携の取り組みを進め、ノウフクJAS(※)の取得も予定しています。

農業に取り組むことで、担い手不足といった課題を肌で感じる一方、地域農家からは栽培指導の申し出や農地の賃借・売上の相談が出てくるなど、地域との関わりがこれまで以上に増えました。また、障害者による農作業は予想以上の働きがあることもわかり、農業の労働力不足を解消する新たな手法であると感じています。



ハラペーニョのピクルス

これらの活動を通じて得た経験を基に、現在は地域高齢者や障害者を活用し、お茶やとうがらし栽培を通じて中山間地域の活性化を図る新たな活動も始めています。他にも、とうがらし(ハラペーニョ)を使ったピクルスの開発など、6次産業化にも取り組んでいます。

今後も、「農業と福祉を通じた地域課題の解決」と、「持続可能な地域産業と雇用の創出」を行い、地域の絆の継承と未来の創造をしていきたいとのことです。

- (※) 農福連携：障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組
- (※) ノウフクJAS：日本農林規格(JAS)認証のひとつであり、障害者が生産に関わった食品を認証するもの

新農業士・新名誉農業士の紹介

令和3年1月8日(金)に令和2年度栃木県農業士・女性農業士・名誉農業士が認定されました。那須地方では農業士1名が認定され、また、永年の農業士活動に対しまして名誉農業士2名が認定されましたのでご紹介します。今後、那須地方の農業振興、地域活性化、青年農業者の育成等ご活躍を期待いたします。なお、那須地方での認定者は、農業士29名、女性農業士10名となりました。

● 新農業士 ●



平山 輝貴氏 (那須町)

水稻のほかに観光地に近い立地条件を活かし、農産物直売所向け野菜を少量多品目(約40種類)作付けし出荷しています。さらに漬物加工によって野菜の効率的活用と高付加価値化にも取り組んでいます。

また、環境保全型農業直接支払事業に参加し、環境整備等の共同作業を行い、多面的機能保全のために利水・農道等の保安全管理に貢献しています。

● 新名誉農業士 ●



高野 礼子氏
(大田原市)

平成17年度に女性農業士の認定を受け、15年に渡り、男女共同参画の推進や地域農業の振興に尽力されました。



大塚 誠氏
(那須塩原市)

平成20年度に農業士の認定を受け、12年に渡り、地域農業の振興、青年農業者の育成に尽力されました。

令和2年度那須地方農政講演会が開催されました

令和2年12月10日(木)に那須野が原ハーモニーホール(小ホール)において、令和2年度那須地方農政講演会が開催されました。当日は、教育旅行を中心に年間1万人以上の受入を行っている一般社団法人「みなかみ町体験旅行」の福田一樹専務理事をお迎えして、着地型旅行に特化した、旅行商品の企画開発や、農家民泊を進めるための素材開発・磨き上げの考え方について具体例をあげていただきながらお話しをしていただきました。

また、株式会社流通研究所の上田主任研究員及び生産振興課の関主査から「水田における露地野菜の産地づくり」について、全国的な産地事例や県内の取組、露地野菜を導入、生産拡大する際の支援制度についての情報提供や、那須農業振興事務所からは、農村整備部の藤沼総括補佐から「ほ場整備におけるスマート農業へのアプローチ」について、経営普及部の小林主査から「農薬を安全で効果的に使うために」についてお話しさせていただきました。

コロナ禍の中での開催でしたが、感染症対策に配慮しつつ、140名を超える農業者や関係機関の職員などが一堂に会し有意義な時間を過ごすことができました。



福田理事による講演

栃木県農業大賞受賞者紹介

栃木県農業大賞は、本県の農業・農村を子供たちに夢を与え、惹きつける魅力あるものとしていくため、大きく変化する農業情勢に対応し新規性や独自性の高い取組を行う農業者や団体を表彰しています。今年度は、管内から多くの受賞者がありました。

農業経営の部 【栃木県知事賞】和泉 正行さん・華奈さん (那須塩原市)



和泉正行さん・華奈さんは、現在、経産牛 83 頭、育成牛 53 頭を飼養する酪農家です。「良質な生乳を生産する」をモットーに、牛の体調、乳質、気候等を考慮しオリジナル飼料の給与に力を入れています。

能力を最大限に引き出すため、カウコンフォートを考慮したストレスのない環境づくりやセンシング技術を活用した飼育管理など、生産性向上に力を入れています。また、若手農家や女性組織と連携しながら組織・地域の活性化にも取り組んでいます。

【下野新聞社長賞】有限会社 那須野農産 (那須塩原市)

有限会社那須野農産は、「赤田地区からは耕作放棄地を発生させない」を基本方針に、農地の借り受けや農作業の受託を行っている農業法人です。水稻・飼料用稲・麦を中心に作付けしていますが、キャベツ等の園芸作物も導入し、経営の安定化を図っています。また、地域内の畜産農家との耕畜連携を積極的に図り、畜産業の維持にも貢献しています。



農村活性化の部 【栃木県農業協同組合中央会長賞】青木一区農地水環境保全対策委員会(那須塩原市)



非農家世帯の増加により、農村コミュニティの文化が変化中、新たな農村コミュニティの再整備のため、農家世帯の経験と非農家の知識を生かした活動を行っています。

伝統的催事の開催、農業環境維持活動に加え、地域資源を次世代に継承すべく那須疎水の分水路を生かしたビオトープの管理を行うとともに、地域の自然環境、文化について発信し、交流を図っています。

【下野新聞社長賞】しのはら玉藻の里 (大田原市)

大田原の名木「臥竜のフジ(藤棚)」と九尾の狐に縁のある玉藻稲荷神社がある豊かな農村環境、景観維持のために、近隣地域の環境保全団体等と連携を取りながら活動を行っています。

公園のように美しく整備することで交流人口を呼び込み、地域活性化を図っています。



【下野新聞社長賞】上川の自然を守る会 (那須町)

町の中心部に近い地域でありながら、主食用米や酒米を生産する生産性の高い水田地域で、地域の生産性の維持・向上のため、農地・施設の保全管理を中心に活動を行っています。

保全管理には、集落の機械作業のエキスパートが指揮をとっています。また、地域の守り神「虚空菩薩」を奉る秋祭りで伝統の継承とコミュニティの強化を図り、環境保全について考えるきっかけ作りの「生き物調査」にも力を入れています。



芽吹き力賞 【栃木県知事賞】ばんずふあーむ 相場博之さん・祥子さん (那須町)



相場さんは東京都出身ですが、生き物が好きであったため、畜産関係の大学に進学、その後企業系大規模牧場、個人牧場勤務を経て、那須町で酪農経営を始めました。酪農新規参入者は県内で 17 年ぶりとなり、地域酪農の再興につながると周囲からも期待を寄せられています。

牛の状態を観察し、アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理で、高い生乳生産量を誇っています。

酪農協等関係機関のサポートがあってこそその成功と考え、自身の経験を活かし、地域における新規参入者のサポートも積極的に行っています。

各種表彰事業者紹介

優良担い手表彰事業 優良認定農業者の部(個人)で優良賞を受賞

村田光喜さんは、大田原市上石上で水稲を中心とした大規模な土地利用型農業経営を行っています。

高品質な農産物を安定的に生産するため、様々な省力化技術(機械・設備等)を積極的に導入するとともに、平成29年度からは、更なる経営発展のため、後継者の就農を契機に土地利用型園芸品目である加工用たまねぎ栽培に取り組んでいます。

また、地域の農地保全に視点を置き、地域農業者からの農地や作業の委託要請についても積極的に取り組んでいます。



村田光喜さん



小山田哲也さん

第3回栃木県土地利用型園芸コンクールで優秀賞を受賞

小山田哲也さんは、計画的な大型機械の導入や自作地を中心とした農地集積による作業効率を高めた露地ねぎ+水稲の複合経営の取り組みが高く評価され、第3回栃木県土地利用型園芸コンクールにおいて優秀賞を受賞されました。農福連携にも取り組み、今後はより安定的で高品質な露地ねぎ生産と、家族中心の経営からのステップアップを目指しています。

毎日農業記録賞一般の部にて地区入賞

大田原市片田の齋藤まゆみさんは、若い頃に出会った輝く農村女性に憧れ、パートナーと共に優良な農業経営を行ってきました。その後、社会福祉活動を通じた地域貢献が評価され、女性農業士となり、輝く女性の仲間入りを果たしました。

「私の終わりなき『挑戦』」と題して人生を振り返り、これから先の目標を明確にするためにと、応募したそうです。

今回の受賞をきっかけに、これからへの決意も新たに、今後益々の活躍が期待されます。



齋藤まゆみさん

第7回那須地域良食味米コンクールが開催されました



食味官能審査の様子

令和2年10月28日、那須地方農業振興協議会主催の那須地域良食味米コンクールが開催されました。「コシヒカリ」や「なすひかり」など過去最高の出品数である63点の応募がありました。

一次審査では、機械分析や外観品質評価を行い、「コシヒカリ部門」、「なすひかり・その他良食味米品種部門」の上位2点が最終審査へと進みました。

最終審査では、(一財)日本穀物検定協会認定「お米アドバイザー」相馬雅弘氏(JAなすの本店営農部)による食味官能審査を行い、最優秀賞を選出しました。「コシヒカリ部門」は大貫敏和さん(那須塩原市)、「なすひかり・その他良食味米品種部門」は人見浩さん(那須町)が「ゆうだい21」で最優秀賞を受賞しました。

第37回栃木県肉用牛総合共進会でJAなすのが上位入賞独占

令和2年12月8日、矢板家畜市場において第37回栃木県肉用牛総合共進会(種牛の部)が開催されました。県内各地から出品された和牛繁殖雌牛46頭が優劣を競い、管内の14頭が上位入賞を果たしました。各区最優秀賞は14ヶ月令以上若雌で磯昌道さん(那須塩原市)、17ヶ月令以上で豊田勝保さん(那須塩原市)、成雌牛で遅沢陽さん(大田原市)で、磯さんの「みふくしげ」号は最高位の名誉賞(農林水産大臣賞)を受賞しました。今後も那須地区は優良雌牛を保有する和牛繁殖の一大産地として更なる発展が期待されます。



磯昌道さんと「みふくしげ」号

青少年活動紹介

「4Hフラワープロジェクト (令和2年 10月 14日開催)」

那須野が原青少年クラブ協議会と栃木県青少年クラブ協議会は、「学校行事の縮小や地域のイベント中止が相次ぐ中でも、子供達が自分の手で植えたパンジーがきれいに咲く姿を見て、少しでも元気になってほしい」と“4Hフラワープロジェクト”を企画し、花育活動を実施しました。

パンジーの苗を那須塩原市立箒根中学校に寄付。クラブ員10名が同校を訪問し、全校生徒106人と一緒に花壇やプランターへの植付け作業を行いました。



生徒会役員との記念撮影



植付け作業

「地域交流研修会 (令和2年 12月 15日開催)」



プロジェクト活動事例発表

地域交流会では、水稻の食味向上や循環型酪農経営の確立に取り組んだプロジェクト活動の発表がありました。また、「農業者は生産者であり営業マン! 自己ブランドを意識してアピール上手に!!」と題して、SNSでの情報発信手法や発信力を高めるための自己ブランディング等について講演をいただきました。

今後も、那須野が原青少年クラブ協議会や各市町青少年クラブ協議会では、花育や食育をはじめとする地域貢献活動やプロジェクト活動とおしなやかな農業技術の向上や経営改善への取り組みを行っていきます。

女性活動紹介

那須地方農村女性会議 (令和2年 11月 30日開催)

那須地区の6つの女性グループで組織される那須地方農村女性会議では、農業・農村におけるワークライフバランス推進研修会を開催しました。

全国稲作経営者会議顧問である、下野市の大越一雄氏から「先端技術を活用した経営改革とワークライフバランス」と題し御講演をいただき、笑いを交えての質疑応答も含め、とても楽しく有意義な研修会となりました。



大越氏による講演

スタートアップ講座



マルシェ実習

次代の農業を担う女性を発掘し、農業への関心や理解を高めるための講座を実施しています。

第1回は、花とハーブのある心豊かな暮らしと題した講義とハーブを使った小物づくりを行いました。第2回は、ブランディングについての講義を受けながら、クリスマス飾りを作りました。第3回は、自園の農産物、農産加工品を販売するマルシェの実習を行いました。

研修とともに、普段会うことの少ない農村女性の情報交換の場としても活用いただいています。

アクティブ講座

女性の積極的な農業経営への参画を推進するため、女性目線での栽培技術講座を実施しています。

第1回は、JAなすの梨部会の若手女性を対象に、樹勢強化のせん定方法を研修しました。第2回は酪農をテーマに3月開催予定です。

研修に併せて、経営上の課題について情報交換も行い、今後の農業経営に役立てていただきたいと思います。



せん定方法の研修

認定農業者の更新時には共同申請も検討しましょう

認定農業者の多くの方が、制度資金を活用し経営発展に役立てています。しかし近年、制度資金を借り受けていた経営主の方が急にお亡くなりになり、借り受けていた制度資金を一旦全額返還しなければならない事例が見受けられました。パートナーや後継者が認定農業者になっていれば、借受者の変更手続きだけで、継続して借り受けることができます。

経営継承をスムーズに行うためにも、また、男女共同参画や後継者の経営者としての自覚養成のためにも、是非、共同申請を行っておきましょう。

共同申請する時の農業経営改善計画認定申請書の書き方(例)

申告者	住所	大田原市本町1-3-1
	フリガナ	ナス タロウ・ハナコ・マナブ・ケイコ
	個人・法人名	那須 太郎・花子・学・恵子
	生年月日・ 法人設立年月日	S41.1.1・S42.2.2・H3.3.3・H4.4.4

この部分を
連名にします

令和3年度とちぎ農業ビジネススクールの御案内

～是非、本人や御家族、従業員が受講して具体的な経営改革に取り組みませんか?～

- 募集期間：令和3（2021）年2月12日（金）～5月6日（木）
- 開催期間：令和3（2021）年6月22日（火）～令和4（2022）年3月1日（火）（全18回）
- 募集対象：経営の高度化を目指す本県在住の農業者
（農業従事経験が概ね3年以上45歳程度まで）
- 募集定員：20名
- 受講料：30,000円
- 内 容（令和2年度参考）：
経営者マインドセミナー
（農業経営実践者の講義及び討論による意識改革）
経営スキルセミナー（マーケティングや会計・財務管理等の経営スキル習得）
経営改革プランニング（中小企業診断士等の専門家からアドバイスを受けながら作成）
- 問合せ先：栃木県農業大学校 宇都宮市上籠谷町1145-1（TEL 028-667-4944）



昨年度の講義の様子

那須農業振興事務所が
移転しました!



大田原市役所
B別館に
移転しました



編集・発行 栃木県那須農業振興事務所 令和3（2021）年2月

〒324-0041 栃木県大田原市本町1-3-1 ☎0287-22-2826 FAX 0287-23-7994
事務所HP

事務所ホームページ <http://www.pref.tochigi.lg.jp/g56/index.html>